

令和6年11月11日発行（第192号） こう じ え ん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



管外の先進農家から技術を学ぼう！ ～ 百聞は一見に如かず ～

宮古地方農業振興協議会では、高単収につながる土づくりや高温対策等の技術を学ぶため、10月10日（木）に先進地農家研修を開催しました。

今回は、一関市大東町のトマト農家小山智さん及び一関市室根町のピーマン農家畠山貴一さんの農場を訪問し、堆肥作りを含めた土づくりや各品目の栽培上のポイント等について研修しました。

当日は、宮古管内の新規就農者及び新規就農希望者13名のほか、一関のピーマン農家も参加し、積極的に質問・意見交換する姿が見られました。

参加者からは、「管内の平均的な単収を大きく上回る生産者の栽培管理等について知る貴重な機会となった」といった声もあり、有意義な研修となりました。

普及センターでは、新規就農者や新規就農希望者の円滑な就農につながるよう、今後も関係機関と連携して取り組んでいきます。

【担当：佐々木（花）技師】



乳用牛美牛コンテスト 節目の60回を迎える

～第60回岩手県沿岸ホルスタイン共進会開催～

10月5日（土）、第60回岩手県沿岸ホルスタイン共進会が岩泉町「乙茂おでんせ広場」にて開催されました。この共進会は、乳用牛の改良並びに増殖技術（繁殖管理と子牛育成等に関わる技術）の研鑽を図ることを目的としており、第1回共進会は昭和35年に開催されています。

今回の共進会には、未經産牛や経産牛の8部門に30頭が出品され、体形や品位等の項目で審査が行われました。審査の時には酪農家や盛岡農業高校生が、牛が美しい歩き姿となるよう誘導していました。

各部の優等賞受賞牛の中からチャンピオン牛を決めました。経産牛のグランドチャンピオンは山崎敏氏出品牛が、未經産牛のジュニアチャンピオンは大牛内育成牧場出品牛が受賞しました。

普及センターでは、これからも酪農家や関係機関と共に酪農振興に取り組んでいきます。



【担当：昆野上席】

「銀河のしずく」作付経営体募集が始まりました

令和7年産「銀河のしずく」の作付募集が始まりました。作付を希望する方は下記報告先までご連絡ください。

(1) 受付期間：令和6年12月13日(金)17:00まで

(2) 主な作付要件

- ・ 作付水田が栽培適地にあること(詳細はJAまたは普及センターまでお問い合わせください)
- ・ 前年の主食用米の作付面積が概ね30a以上であること。
- ・ 農産物検査で過去2年間の1等米比率の平均が95%以上であること(令和5年産米は特例あり)。

(3) 報告先

JA出荷者	個人販売をされている方
新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター TEL:0193-69-3220	宮古市 TEL:0193-68-9094 山田町 TEL:0193-82-3111

「銀河のしずく」は、県内の栽培面積が5,800haと急速に拡大しており、宮古地域でも栽培面積が順調に増加しています。宮古管内でも栽培研究会が活動しており、栽培技術の向上に励んでいます。今年度は、他品種よりもカメムシ被害や倒伏が少なく栽培しやすいと好評です。作りやすくておいしい「銀河のしずく」に切り替えてみませんか？

【担当：小野普及員】



農薬を適正に使用しましょう

秋冬期の農薬適正使用について



秋冬季に栽培される施設葉菜類において農薬残留基準の超過事案が発生しています。

以下の事項に留意して、農薬の適正使用の徹底に努めましょう。

- 1 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認した上で使用するとともに、農薬の使用記録を残す。
- 2 「非結球あぶらな科葉菜類」等、作物群で登録のある薬剤を使用する場合、適用する作物が限られるので、適用作物の誤認がないように注意する。
- 3 農薬の散布器具、収穫容器、農作業用具等の洗浄不足がないか点検する。
- 4 農薬の飛散や、前作で使用した農薬の土壌残留に十分注意する。
- 5 農業生産工程管理(GAP)の取組により、食の安全・安心確保の取組を一層強化する。

農薬の残留基準値は随時改正されており、適用のない作物においては残留基準値が削除となる場合もあることから、厚生労働省ホームページ(食品中の残留農薬等)から最新情報をご確認ください。



【担当：佐々木(絢)技師】

(編集後記)

耕耳苑192号をお読みいただきありがとうございます。日が暮れるのが一段と早くなり、朝晩の冷え込みに晩秋の訪れを感じます。気づけば今年も残すところあと2ヶ月となりました。皆様も風邪などひかないよう、体調管理に気を付けながらお過ごしください。次号は令和7年1月発行予定です。(昆野有)